

2025年度

# 第38回ミュージック・ペンクラブ音楽賞決定！！

## 《 クラシック 》

1. ソロ・アーティスト部門 阪田知樹(ピアノ)
2. 室内楽・合唱部門 クアルテット・インテグラ(弦楽四重奏)
3. オペラ・オーケストラ部門 セイジ・オザワ松本フェスティバル 2025《夏の夜の夢》  
(ロラン・ペリー(演出)沖澤のどか(指揮)サイトウ・キネン・オーケストラ)
4. 現代音楽部門 細川俊夫 《ナターシャ》
5. 研究評論・出版部門 船木篤也著「三月一日のシューベルト」(音楽之友社)
6. 功労賞 秋山和慶(指揮)
7. 特別賞 ヘルベルト・ブロムシュテット(指揮)

## 《 ポピュラー 》

1. 最優秀作品賞 Fujii Kaze『Prema』
2. イベント企画賞 「新宿ピットイン60周年コンサート」(12/27～28 新宿区立新宿文化センター)
3. 新人賞 新浜レオン
4. 著作出版物賞 北中正和監修「ラジオからロックンロールが聞こえる」
5. 功労賞 渋谷陽一
6. インターナショナル部門 クリスチャン・マクブライド 『ウィズアウト・ファーザー・アドウ Vol.1』

## 《 オーディオ 》

1. 技術開発賞 アキュフェーズ T-1300(FM チューナー)
2. 録音作品賞 「SHIKIORI 想帰庵／シーネ・エイ、ヤコブ・クリストファーセン」  
(CD)STUNTRECORDS
3. 功労賞 ラックスマン株式会社創業百周年

### 授賞式

2026年4月21日(火) 受付 13:30～ 授賞式 14:00～

授賞式会場:北とびあ カナリアホール

〒114-8503 東京都北区王子 1-11-1 電話:03-5390-1100(代表)

※授賞式は関係者のみの開催となります。

一般社団法人ミュージック・ペンクラブ・ジャパン <http://www.musicpenclub.com>

MPCJ 事務局 080-8051-6652 / [mail@musicpenclub.com](mailto:mail@musicpenclub.com)

You Tube「MPCJ チャンネル」開設中！ X も是非！アカウント:@MUSICPENCLUB



MUSIC PEN CLUB, JAPAN

# 2025年度第38回ミュージック・ペンクラブ音楽賞受賞者一覧

## Comments & Profile

ミュージック・ペンクラブ音楽賞とは、少数の選考委員が選ぶ従来型の賞とは異なり、ミュージック・ペンクラブ・ジャパン約 130 名の全会員による自主投票によって選定されます。授賞対象は、基本的に、日本でその年に公開または発表された音楽界の全プロダクツやイベントです。それは録音録画の形で発売されたものの他、公演、著作、技術開発を含みます。選考基準は、当会の「クラシック」「ポピュラー」「オーディオ」の分野ごとに設けられ、各分野で授賞対象者・団体をノミネートし、最終的に全会員の分野を超えた投票によって決定されます。

## MUSIC PEN CLUB AWARDS

Music Pen Club Awards are an annual award determined by the vote of the whole members of our organization, Music Pen Club Japan. The voting process begins with a board of directors selecting the members of a screening committee. In each field (Classic, Popular, Audio), they submit the candidates of each categories. Based on the shortlist, each member of the Music Pen Club Japan can either give one's vote, or write down additional candidates on any field. Based on the poll, the screening committee selects the finalists. With the final approval by a board of directors, winners of Music Pen Club Awards are announced. For the eligibility requirements, works (albums, videos, concerts, books, audio, etc.) must be released between January 1 and December 31 of the preceding year. As an award for distinguished services, a person must have done distinguished service in the previous years. The announcement is available to the public on our homepage. At the same time, we send a written press release to the organizations concerned. Music Pen Club Awards ceremony is held in April every year. We honor the winners with a certificate of merit and a shield as a prize.

ミュージック・ペンクラブ・ジャパン MUSIC PEN CLUB, JAPAN

会長：朝妻一郎（ポピュラー）、副会長：石田一志（クラシック）・潮晴男（オーディオ）

音楽賞実行委員長：潮晴男

2025年度音楽賞選考委員および担当理事

クラシック 選考委員：江藤光紀、萩谷由喜子、長谷川京介、宮下博、山崎浩太郎

担当理事：池田卓夫、城間勉

ポピュラー 選考委員：川崎浩、北中正和、立川直樹、中川ヨウ、早田和音

担当理事：三塚博、原田和典

オーディオ 選考委員・担当理事：潮晴男、大橋伸太郎、小原由夫

## 《 クラシック 》

ソロ・アーティスト部門

阪田知樹（ピアノ）Tomoki Sakata



©Ayustet

2023年にラフマニノフ、ピアノ協奏曲全曲演奏会を成功させたのちも、全曲演奏をテーマの一つとして重量級演奏会に挑戦し、2025年11月28日にはカーキ・ソロムニシヴィリ指揮スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団との協演でブラームスの大作協奏曲2曲の性格を弾き分けた。12月26日にはハクジュ・ホールでベートーヴェン、リスト編曲の交響曲ピアノ独奏版シリーズの最終回として第九を完遂。これらコンプリート性の高い不断の演奏活動に対して贈賞する。（萩谷由喜子）

プロフィール 阪田知樹

2016年フランス・リスト国際ピアノコンクール第1位、6つの特別賞。2021年エリザベート王妃国際音楽コンクール第4位入賞。

国内はもとより、世界各地20ヵ国以上で演奏を重ね、国際音楽祭への出演多数。

2015年CDデビュー。音楽之友社よりピアノ編曲集「ヴォカリーズ」、「夢のあとに」、阪田の作曲した「アルト・サクソフォンとピアノのためのソナチネ」を出版。

2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞、2023年第32回出光音楽賞、第72回神奈川文化賞未来賞、第27回ホテルオークラ音楽賞を受賞。



©Taira Tairadate

## 室内楽・合唱部門 クァルテット・インテグラ (弦楽四重奏) QUARTET INTEGRA



©Rintaro Kanemoto

2025年は創立10周年の節目となった。米国での研さんを終えてドイツに拠点を移し、日本の若いグループをけん引する団体として存在感を高めている。チェロ奏者の交代を経て、精緻でスムーズ、機能的なアンサンブルにいっそう磨きが掛かってきた。日本ではベートーヴェン・サイクルを始動するなど、今後の業績にも期待。そこからの第16番を含むCDを、高音質で有名な米ヤーラン・レコーズから出し、演奏・録音とも極上の成果をあげた。(宮下博)

### プロフィール クァルテット・インテグラ (弦楽四重奏)

2015年結成。豊かな音色と緻密なアンサンブルで国際的に注目を集め、ARDミュンヘン、ウィグモアホール、バルトークなど主要国際コンクールで受賞を重ねている。レパートリーはハイドンから現代まで幅広く、古典と現代の対話を探求し、日本国内で定期的にリサイタルやベートーヴェン全曲演奏に取り組んでいる。近年はドイツを拠点とし、ハイデルベルク音楽祭などヨーロッパの主要音楽祭にも招かれ、活動を広げている。

## オペラ・オーケストラ部門

### セイジ・オザワ松本フェスティバル 2025 《夏の夜の夢》

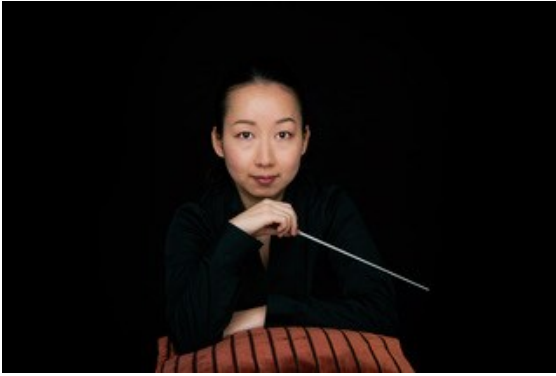
#### Seiji Ozawa Matsumoto Festival

(ロラン・ペリー (演出) 沖澤のどか (指揮) サイトウ・キネン・オーケストラ)

2024年2月6日に小澤征爾が亡くなった時、誰もが彼の創設した松本市のフェスティバルの先行きを危ぶんだ。マエストロが最晩年、首席客演指揮者に指名した沖澤のどかは同年夏の公演で急きょ代役を務めたブラームスの交響曲の指揮で圧倒的成功を見せ、周囲を安堵させた。2025年のフェスティバルでは素晴らしいキャストとともにブリテンのオペラ「夏の夜の夢」に挑み、ロラン・ペリーの幻想的な演出と合致した玲瓏な音楽づくりで指揮者としての大きな進境を記した。(池田卓夫)



©大窪道治



© Felix Broede

プロフィール 沖澤のどか（指揮）

1987 年生まれ。セイジ・オザワ 松本フェスティバル創設者小澤征爾の指名により、2024 年首席客演指揮者に就任。現在、京都市交響楽団常任指揮者。2025 年ボストン響にデビュー、国内主要オーケストラにも定期的に客演。故郷の青森県で自身の音楽祭も開催している。

プロフィール セイジ・オザワ 松本フェスティバル

1992 年に小澤征爾が創立した『サイトウ・キネン・フェスティバル松本』を 2015 年『セイジ・オザワ 松本フェスティバル』と改称。小沢の恩師、齋藤秀雄の名を冠したサイトウ・キネン・オーケストラを中心に、小澤征爾音楽塾の教育プログラムにも力を入れている。

現代音楽部門 細川俊夫 《ナターシャ》 Toshio Hosokawa



撮影：堀田力丸



© Kaz Ishikawa

大野和士芸術監督による日本人作曲家委嘱作品シリーズ第3弾《ナターシャ》は、電子音響やエレキギターなど鮮烈な音響も交えたダイナミックなドラマで、作曲者細川俊夫が新境地を見せるオペラとなった。多和田葉子の台本、クリスティアン・レートの演出、大野和士の指揮、イルゼ・エーレンスと山下裕賀ほかの独唱者、合唱と管弦楽が一体となり、日本ではこれまでにない、21世紀にふさわしい充実のオペラ空間を創造した。（山崎浩太郎）

プロフィール 細川俊夫

ヨーロッパと日本を中心に活動し、オペラ『班女』、管弦楽作品『循環する海』など欧米主要オーケストラ、音楽祭、歌劇場等からの多くの委嘱作が高評を得る。武生国際音楽祭音楽監督、広島交響楽団コンポーザー・イン・レジデンス。

プロフィール 新国立劇場

日本唯一の現代舞台芸術のための国立劇場として、オペラ、バレエ、ダンス、演劇の公演の制作・上演や、芸術家の研修等の事業を行う。オペラ部門（芸術監督：大野和士）は世界水準のオペラを年間およそ10本上演している。

## 研究評論・出版部門

船木篤也著 Atsuya Funaki

「三月一日のシューベルト」  
(音楽之友社)



「音楽評論は文芸だ」と看破する筆者の雑誌連載に加筆した単行本。音楽批評の可能性に挑み、思わぬきっかけから意外な方向へ発展する道筋が新鮮だ。その語り口は丁寧だが、確信犯的でもある。読み手をみずからのロジックへ引っ張り込み、納得させる一種の牽強付会が快感になる。映画の一場面に流れるシューベルトから原発事故での喪失に思いをはせたり、歌謡曲の一節から深い洞察に突き進んだり、豊富な筆力がほとぼしる快作。(宮下博)

プロフィール 船木篤也

音楽評論家。1967年生まれ。広島大学、東京大学大学院、独ブレーメン大学に学ぶ。19世紀ドイツを中心テーマに、「読売新聞」で演奏評、NHK-FMで音楽番組の解説を担当するほか、雑誌等でも執筆。東京藝術大学ほかではドイツ語講師を務める。共著に『魅惑のオペラ・ニーベルングの指環』（小学館）、共訳書に『アドルノ 音楽・メディア論』（平凡社）など。



## 功労賞 秋山 和慶（指揮） Kazuyoshi Akiyama



©TSO

東京交響楽団を長く率いその水準を高めたのみならず、地方楽団に至るまで長年にわたり幅広い現場で活動し、日本の演奏文化の基盤を支えてきた。スター性を押し出すのではなく、正確無比なバトンテクニックと堅実な解釈で楽団の育成に粘り強く向き合った。東京と地方、古典と現代を結ぶ 60 年もの活動は指揮者の模範像を更新し、日本のクラシックの土台作りに大きく寄与した。（江藤光紀）

### プロフィール 秋山和慶

齋藤秀雄に師事し桐朋学園卒業。1964 年に東京交響楽団を指揮してデビュー後、同団の音楽監督・常任指揮者を 40 年務め、日本のオーケストラ界を牽引した。バンクーバー響、シラキユース響等の音楽監督を歴任し、ニューヨーク・フィルなど欧米の名門オーケストラに客演。サントリー音楽賞ほか受賞多数。紫綬褒章、旭日小綬章を受章し、文化功労者に選出。2024 年に指揮者生活 60 周年を迎えた。2025 年 1 月逝去。

## 特別賞

### ヘルベルト・ブロムシュテット（指揮） Herbert Blomstedt

ヘルベルト・ブロムシュテットは、2025 年 10 月、NHK 交響楽団との 3 つのプログラム、6 回の定期公演に登場し、98 歳とは思えぬ集中力と活力により、透き通った響きと深い敬虔さに貫かれた演奏を実現した。グリーグ、シベリウス、メンデルスゾーン、ブラームスなどにおいて、ゆるぎない構造のもと作品の核心を、今生まれたかのように立ち上がらせた。その演奏は、指揮芸術の本質と可能性を日本の聴衆にあらためて示す、かけがえのない体験となった。（長谷川京介）



©Paul Yates



©NHK 交響楽団

プロフィール ヘルベルト・ブロムシュテット

現役最高齢指揮者の一人。1927年スウェーデン人の両親のもと米国に生まれ、幼少期はスウェーデンで育つ。ストックホルム王立音楽院、ジュリアード音楽院などで学ぶ。ドレスデン国立歌劇場管、サンフランシスコ響、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管などの首席指揮者や音楽監督を務めた。NHK交響楽団とは1981年に初共演し、1986年より名誉指揮者、2016年に桂冠名誉指揮者となる。ドイツ系音楽をレパートリーの中心とし、北欧音楽でも高い評価を受けている。

## 《 ポピュラー 》

### 最優秀作品賞 Fujii Kaze 『Prema』



ロック、ポップス、R&B、ヒップホップ、ネオソウルなど多岐に亘るポピュラー・ミュージックを取り込んだ豊かな音楽性。そして自身の内面世界や死後の世界を透徹に見つめた高い精神性、世界平和をテーマとした、全曲英詞による深みのあるメッセージ性。そのふたつを、無条件の愛を示すサンスクリット語“Prema”を軸にして、世界に通用するポピュラリティの高い音楽として構築。J-POPの新時代を告げるアルバムとなっている。(早田和音)

プロフィール 藤井 風 Fujii Kaze

1997年6月14日生まれ。幼少期より父の影響でクラシックピアノを始め、ジャズ・クラシック・R&B・ソウル・ポップなど多様なジャンルの音楽を聴いて育つ。12歳の時にピアノカバー動画をYouTubeに投稿したことが、後に音楽の世界へ入るきっかけとなった。2020年5月に1st Album『HELP EVER HURT NEVER』、2022年3月に2nd Album『LOVE ALL SERVE ALL』、2025年9月に全曲英詞による3rd Album『Prema』をリリースし、3作品ともBillboard Japan総合アルバムチャート“HOT Albums”にて1位を獲得。2026年はPrema World Tourと題したツアーをアジア(ドーム&スタジアム)からスタートさせる。



## イベント企画賞 「新宿ピットイン60周年コンサート」

(12/27～28

新宿区立新宿文化センター)



撮影：土井政則氏

左からピットイン佐藤良武会長、佐藤良雅社長

日本のジャズシーンを支えてきたライブハウス「新宿ピットイン」が、2025年12月27、28日、東京・新宿区新宿文化センターで60周年記念コンサートを開催した。両日で全12組、日本を代表するジャズ・ミュージシャンが一堂に会し、即興性溢れる素晴らしいジャズを繰り広げた。昨年末で休養宣言をした山下洋輔(83)の熱演、渡辺貞夫(92)の真摯なサウンド追求も忘れられない。ピットインが演奏家の個性を尊重してきた歴史が、花開いたコンサートだった。(中川ヨウ)

### プロフィール 新宿ピットイン

新宿ピットインは、1965年12月創業以来日本のジャズを牽引してきた老舗ジャズクラブである。毎日、昼/夜の部を開催し、近年はネット配信でファン層を広げてきた。その新宿ピットインが60周年を祝い、2025年12月27、28日両日"60周年記念コンサート"を開催した。会場となった新宿区新宿文化センター大ホールは、連日満席。計12グループが出演し、ジャズへの情熱をステージ上と客席で分かち合い、素晴らしいコンサートとなった。

## 新人賞 新浜レオン LEON Niihama

演歌ジャンルの歌手としてデビューしたが、「多湿」「寒冷」「陰鬱」「暗闇」「貧困」「酒臭さ」などを想起させる旧来の「演歌」の枠に留まることなく、ポップ演歌の伝統に則ったりつつも、明度の高い歌謡曲を令和のスタイルで表現している。紅白歌合戦に24、25年と連続出場。25年のレコード大賞でもアニソン「Fun! Fun! Fun!」で優秀作品賞を獲得した。氷川きよしが開拓した新しい芸能歌謡の継承者として評価されるべき歌手。(川崎浩)



## プロフィール 新浜レオン

2019年5月1日令和元日にデビュー。2024年木梨憲武プロデュース、所ジョージ作詞・作曲「全てあげよう」で『NHK紅白歌合戦』初出場を果たした。2025年「Fun! Fun! Fun!」はTVアニメ『名探偵コナン』のエンディングテーマに抜擢され、「WAKIWAKIダンス」が話題となり『NHK紅白歌合戦』に2年連続出場、『第67回日本レコード大賞』において「優秀作品賞」を受賞した。1st EP「New Beginning」を2026年4月15日（水）にリリースする。

## 著作出版物賞

### 北中正和監修 Masakazu Kitanaka 「ラジオからロックンロールが聞こえる」



これは北中正和氏監修によるムック。洋楽ポピュラー音楽とラジオにかかわりの深い音楽評論家、番組ディレクター、レコード会社スタッフ、アーティストら18人が洋楽ポップスとの出会いとラジオの魅力を語ります。個人の思い出話ともとらえられそうですがそれぞれが愛した曲のエピソードにはその人の心が映し出され、単にラジオ全盛時代を語るのではない深みを感じます。2008年の刊行をめざし行われたインタビュー集です。（北澤孝）

## プロフィール 北中正和

1946年奈良県生まれ。音楽評論家。編著書に『毎日ワールド・ミュージック』（晶文社）、『ロック史』（立東舎文庫）、『ボブ・ディラン』（新潮新書）、『ラジオからロックンロールが聞こえる』（シーディージャーナル）など。<http://wabisabiland.net/>

## 功労賞 渋谷 陽一 Youichi Shibuya

音楽評論家、編集者、プロデューサー、DJとして日本のロック文化の発展に決定的な足跡を残した渋谷陽一氏は、1972年にロック誌を創刊し、ロックを真摯に論じる批評の地平を切り拓きました。さらに2000年代には大型ロック・フェスティバルを次々とプロデュースし、音楽を聴くものから体験するものへと拡張。氏の多岐にわたる活動は、日本の音楽文化とジャーナリズムの礎として、今なお深く受け継がれています。(三塚博)

### プロフィール 渋谷陽一

1951年、東京都生まれ。1972年に読者投稿型音楽誌『rockin'on』を創刊。1973年よりNHKラジオのDJとして英米ロックを紹介し、音楽評論の新たな地平を切り拓く。1986年に『ROCKIN'ON JAPAN』を創刊し、以後多数の音楽誌・書籍を手がける。2000年からは『ROCK IN JAPAN FESTIVAL』など音楽イベントの総合プロデューサーを務めた。2024年3月、ロッキング・オン・グループ代表取締役社長を退任、2025年7月14日、74歳で逝去。



## インターナショナル部門

クリスチャン・マクブライド Christian McBride

『ウィズアウト・フアーザー・アドゥ Vol.1』

現代のトップ・ベーシスト、クリスチャン・マクブライドが率いるオーケストラに、豪華な顔ぶれのシンガーが一曲毎に参加するというゴージャスな企画性をもった作品。豊かな熱量を放つバンドをバックに歌うのはステイニング、ジェフリー・オズボーンから話題のサマラ・ジョイ、セシル・マクロリン・サルヴァントまでトップ・クラスの7人。ジャンルやスタイルを超えた顔ぶれには、リーダーであるクリスチャンの自由で多彩なキャリアと音楽的な懐の深さが示されていて、ドリーム・アルバムというべき密度の濃い内容とともに2025年度の“インターナショナル部門”を代表するアルバムにふさわしい。

(岡崎正通)



Photo by Evelyn Freja

プロフィール クリスチャン・マクブライド

1972年5月31日生まれ。アメリカのジャズミュージシャン、ベーシスト、作曲家。ジャズやヒップホップなどジャンルやスタイルを問わず数多くのミュージシャンと共演。サイドマンとして参加したアルバムは数百枚にのぼる。その超人的とも言える多才なテクニックで現代ジャズ界で最も賞賛されているベーシストの1人。底知れないグルーブ感や独特の感性はジャンルの枠をはるかに超え、様々なアーティストたちとのコラボレーションにつながっている。

## 《 オーディオ 》

技術開発賞

アキュフェーズ T-1300 (FM チューナー)



インターネットラジオに加えラジコでも AM や FM 放送が聴ける時代にあって、敢えて空中を伝播する電波を捉えて再生するチューナーを大切に育んできたアキュフェーズならではの製品である。しかもノスタルジックに製品を仕上げるのではなく、デジタル技術を取り入れて感度と SN 比を前作から 4dB も向上させての新世代機の誕生には頭が下がる。ファンのためにチューナーからも新たなる音の世界を創造したいとする彼らのレゾナントルを感じさせる製品である。(潮晴男)

## 録音作品賞

「SHIKIORI 想帰庵／シーネ・エイ、ヤコブ・クリストファーセン」

(CD) STUNTRECORDS



福岡県宮若市にあるユニークな音楽スタジオをデンマーク出身のふたりの演奏家が訪ね、録音を行った。その古民家兼音楽スタジオの名が「想帰庵」と書いてシキオリ。欧米を舞台に活躍した二十世紀の大ベロシスト、ニールス・ペデルセンに教えを受けた日本人、松永誠剛の祖母が住んでいた築150年の古民家をリノベーションして誕生した。

シーネ・エイの作曲が3曲、クリストファーセン作曲が4曲に、スタンダードナンバー5曲を加えた、全12曲が演奏されている。インストルメンタルの「蛇」や「そば」、シーネ・エイが日本語で歌う「そばの花」、琴の音を連想させる音の使い方も面白く、デンマークと日本が深い所で響き合うインタープレイが誕生した。

エイのヴォーカルとクリストファーセンのピアノのインタープレイだが、難関ソフトである。再生の精度が上がるほど、歌声が演奏から浮き上がり瑞々しい生命を得て飛翔する。オーディオシステムの試金石。

(大橋伸太郎)



### プロフィール

シーネ・エイ Sinne Eeg

1977年、デンマークに生まれる。エスビャーの音楽アカデミーに学び、2002年にレコードデビュー。2007年にデンマーク・ミュージック・アワードで最優秀ヴォーカル・アルバム賞を受賞。同国を代表する歌手と目されるようになった。交換学生として日本を訪れたことに始まり、プロのシンガーとなってからも度々来日、コンサートを催すばかりでなく、ヴォーカルのレッスンを開催。両国の音楽振興に尽力。

## プロフィール

ヤコブ・クリストファーセン Jacob Christoffersen

1967年デンマークに生まれる。30年を超えるキャリアの現在同国を代表するピアニストでソングライター。セシル・ノービー、ハンナ・ボエル、シーネ・エイらデンマークのヴォーカリストたちとのコラボレーションで評価を確立、近年は自身のリーダーアルバムが高い評価を受けている。

## 功労賞 ラックスマン株式会社創業百周年



©ラックスマンの前身、錦水堂（1925年）

# LUXMAN



### ラックスマン創業百周年

世界には星の数ほどの大小オーディオメーカーがあるが、百年以上の歴史を誇るのは、ほんの一握り。その数少ないメーカーのひとつが、日本の「ラックスマン(LUXMAN)」である。大阪に拠点を置く錦水堂がラジオ部を立ち上げて、2025年でちょうど100年。第二次世界大戦を凌ぎ、70年代末のオーディオブームで広く認知され、後に成熟市場といわれてもなお、オーディオの灯を照らし続けた。しかも同社は完成品だけでなく、キットという愉しみもアマチュア愛好家に提供したのである。半導体だけでなく真空管アンプも手掛け、なおかつ海外製品も輸入し日本市場に紹介している。そうした業態のメーカーは、今日稀だ。(小原由夫)